



# 水の守り人

## Interview with

今、豊かな小林の湧水を守ろうと活動を続ける人がある。「水は資源」「水は有限である」と話す2人の守り人に話を聞いた。

やまのくち しろう  
**山之口 志朗 さん**

北霧島水源の森づくり推進会議議長  
行政相談員や小林市行政評価外部評価委員、小林市協働のまちづくり推進委員会委員長を務める。

しみず よういち  
**清水 洋一 さん**

湧水インストラクター  
小林おもしろ発見塾塾長、北きりしまコスモドーム館長を歴任。現在は、北きりしま田舎物語推進協議会会長を務めている。



活動のきっかけは  
自分の名前だった。

**清** 水洋一さん64歳。湧水インストラクターとして市内の湧水地を調査し、その保全に努めています。

「私の苗字は、清水。だから水を調べ守ることに使命感のようなものを感じたんです」と笑顔でその思いを語ってくれました。

調査を続けていくうちに感じた「危機感」

**調** 査を始めたのは50歳のとき。10年かけて旧小林市内の70数箇所湧水地を発見しました。見つけずに、ただ山の中を歩き続けたこともしばしば。しかし、「特に苦労したとかはありません。私の活動が水を守ることに貢献できれば」と思いを話します。

しかし、観察を続けてこれまで、湧水地から湧

山や、自然が好き。「好き」から始まった森づくり活動

## 保水力のある森づくりが水資源の保全につながる

山を求め、楽しんで知った森林の大切さ

**「広** 葉樹は山の保水力を高めることができます。小林市には豊かな湧水があるので、かけがえのない水源を守るために木を植えるんです」と森づくりの意義を話す山之口さん。若い頃から自然を愛し、現在も森づくりを行ってきました。

人気の森づくり活動は、こうして生まれた

**山** 之口さんは、商工会議所に勤めていた平成12年、県道1号線（小林えびの高原牧園線）に広葉樹を沿道に植えトンネルを作る事業を企画しました。苗木の購入費や

湧水は限りあるもの。小林の水環境を守っていききたい。

## 豊かな自然・湧水は、市民共通の財産であり宝

き出す水は減少傾向にあるそうです。

昨年の夏、清水さんが定期的に観測していたとある湧水地のこと。そこは、夏になると水が湧き出す場所でした。しかし、その気配がありません。結局水が出ることはありませんでした。前年の少ない降水量が原因とも考えられました。同じ現象が起きた湧水地が

もう一箇所あり、湧水が限りある資源であることに痛感した出来事でした。（※現在は水が湧き出しています。）

湧水のありがたさを知り、それを活性化に

**今** 年7月、小林市は水資源保全条例を制定。清水さんは「湧水は小林市の大きな魅力。守るためには、ありのままの自然を残すことが大切です。条例を契機に、水が限りある資源であることを知ってもらえれば」と話します。現在は、小中学校などで、講師として招かれ、子どもたちに語りかけるなど、幅広く活動する清水さん。その温かい眼差しは、これからも小林市の湧水を見守り続けます。

### Activity 活動の風景

#### 水源調査



### Activity 活動の風景

#### どんぐりの森整備



長に就任。野球のバット材料となるアオダモの木を野球チームの子どもたちと植樹する「バットの森づくり」を行いました。この木がバットの材料になるまでに70年。山之口さんは、森づくりが次の世代に引き継がれることを期待しています。

恵まれた自然の恵みを未来へ残すために

**地** 域の関心が高まるにつなると思います。今回の条例がそのきっかけになれば」と今後の展開へ期待を込める山之口さん。地域の集会などに講師として招かれることがあります。その時は、森づくりによる水資源保護の必要性を語りかけます。

「これから重要なのは森づくりの担い手を増やすこと」  
齢80を迎える山之口さんですが、まだまだ活動へのモチベーションは衰えることを知りません。